

モダニズム

又難の海軍豫備會商

再開の見込なく

本會議も會期未定

英國依然和協案を固持

米國は中立か

戰爭勃發の際

上院で法案検討中

露國からボーランドへ
更にチエツコに向ふ

イーデン氏の急行會談

議を述べたが、傳へらるる處

（ワルソ一二日）露都莫新科
議を述べたが、傳へらるる處

（東京二月三日）

リオ通信

聖州憲法豫備法

聖州電報の傳ふるところに依れば近くその間會を見る遷びとなつて居る聖州憲法豫備法は既に起草委員會で脱稿済みとなつて居るが、右による聖州々議會の職員數は全部で八十四名でその中には十二名の階級代議士及二名の公使代表を含むで居ると、因に右起ード氏の統一黨に入黨する草委員は判事マリオ・マサゴン、法學者サムバード、ドリト、辯護士アリオ・パレットの三氏である。

ペルナルデス、メロ両氏はミナス共和黨から立候補傳ふるどろによると元聯邦大統領アルヴァル・ペルナルデスの三氏である。

池中選手、マラソンで無根

聖州の有力政客の統一黨入りは

無根

レスの勝利は熱烈を振つてラウルの徳行績を稱揚しアリオのアクリシオ・トに安協成立の見込みがある、シアス紙オ通信員にインレスは直接交渉する意向たる可しと

大河反政府黨の有力政客フランチアのラウル・ビッテン

クール、反政府黨少數黨)によれば、それ以前に或は使者を立てる目下在府中の共和黨有

力者ジョン・オーヴィス、ヨーロッパのコロールの諸君

シンドルフォ・コロールの諸君

リオ州過激黨及社會黨は聯合

派本部に於て行はれた同黨者

はその後引きつき交渉裡に

南大河反政府黨の有力政客フ

ラウルの兩氏がブリニオ・サル

エル南大河のラウル・ビッテン

アントーラ・ルザルト・コロ

派本部に於て行はれた同黨者

は三十日解放黨フレンチ

派本部に於て行はれた同黨者

は四月廿一日南大河反政府

派本部に於て行はれた同黨者

は四月廿二日南大河反政府

派本部に於て行はれた同黨者

は四月廿三日南大河反政府

派本部に於て行はれた同黨者

は四月廿四日南大河反政府

派本部に於て行はれた同黨者

は四月廿五日南大河反政府

派本部に於て行はれた同黨者

因に右安協案はフレンチ派和解交渉委員よりフローレス執政界和平運動に共鳴する意向を傳へた

リオ統領候補に

ラウル氏を推薦

各州々議會を開

会近し

南大河和解協定

進涉す

目下全國の視聽を聴動して居る南大河政、反兩派和解運動

はその後引きつき交渉裡に

聖州及ベラルムブコ州憲法議

涉委員の手によって共和黨の交

事日程に入る前、尚多數首

ラウル氏を表彰

四月三十日の下院議會では隣

事の内閣審議會では隣



チエテ・トレスバラス
視察團募集

(印阿弗利加線)

日本より

阿弗利加線

昭和十年度定期發着表

地權と地味を第一とし交通と健康の四大要素を備へるプラ拓三大移住地の内トレスバラス及びチエテの二大移住地へ團體視察を決行します

視察費用はトレスバラス移住地へは一名八〇針レース

チエテ移住地へは一名四十針レース

トレスバラス移住地へは一名八〇針レース

チエテ移住地へは一名四十針レース

日本行御乗船賃

等(各船共)

通一等

通二等

通三等

通四等

通五等

通六等

通七等

通八等

通九等

通十等

通十一等

通十二等

通十三等

通十四等

通十五等

通十六等

通十七等

通十八等

日本行御乗船賃

等(各船共)

通一等

通二等

通三等

通四等

通五等

通六等

通七等

通八等

通九等

通十等

通十一等

通十二等

通十三等

通十四等

通十五等

通十六等

通十七等

通十八等

日本行御乗船賃

等(各船共)

通一等

通二等

通三等

通四等

通五等

通六等

通七等

通八等

通九等

通十等

通十一等

通十二等

通十三等

通十四等

通十五等

通十六等

通十七等

通十八等

日本行御乗船賃

等(各船共)

通一等

通二等

通三等

通四等

通五等

通六等

通七等

